

2005年12月8日

株式会社 富士経済
〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町
2-5 F・Kビル
TEL.03-3664-5811 FAX.03-3661-0165
URL : <http://www.group.fuji-keizai.co.jp/>
広報部 03-3664-5697

バイオビジネス市場調査を実施

- 抗体医薬市場は2015年に600億円規模へ（対04年比 4.4倍） -

総合マーケティングビジネスの(株)富士経済(東京都中央区日本橋小伝馬町 代表取締役 阿部英雄 03-3664-5811)は、研究分野のDNAチップ、医療分野の分子標的治療薬、抗体医薬などを中心に、有望市場として期待が高まるバイオビジネス市場についての調査を行った。その結果を報告書「2005 バイオビジネス市場」にまとめた。

< 調査結果の概要 >

バイオビジネス全体市場

	2004年	2015年	対04年比
研究支援市場	1,383億円	1,681億円	122%
医療市場	4,945億円	6,165億円	125%
アグリ市場	3,562億円	7,935億円	223%
食品・化粧品市場	9,720億円	1兆0,282億円	106%
合計	1兆9,610億円	2兆6,063億円	133%

上記4分野からなるバイオビジネス市場は、2004年は、前年比5%の伸びとなっていた。アグリ市場が好調な事が要因である。研究支援分野は解析機器・試薬分野が大型機器の不振によって伸び悩み、受託サービス、バイオインフォマテクス(生物情報学)も横ばいからマイナス成長となっている。医療市場は、規模の大きい遺伝子組み換え・組織培養が伸び悩んでいるが、抗体医薬、分子標的医薬品などが伸び、年率1~3%の成長となっている。2015年にかけてバイオビジネス全体市場では、年率2~3%の成長と見込まれるが、アグリ市場は年率5%以上の成長が期待されている。研究支援市場や、医療市場は既存市場が伸び悩んでいることと、新規市場の本格的な形成が進まないことから、今後大きな伸びは見込みにくい。ただ、DNAチップ、シグナル関連試薬、抗体医薬、分子標的医薬品、RNAi医薬(遺伝子の発現を抑えるRNA干渉の原理を医薬品に応用したもの)など、一部の品目では大幅な市場の伸びが期待できる。

市場別

1. 研究支援市場(解析試薬・機器、受託サービス、バイオインフォマテクス)

2004年の、解析試薬・機器は、ゲノム解読関連装置市場での国家の大型プロジェクトが終了したことや、旧国立大学が独立行政法人化した事などの影響を受け停滞している。しかし、近年はゲノム解読に代わり、タンパク関連研究が盛んであり、それに使用されるプロテインチップシステムや質量分析などが実績を拡大させている。また研究試薬は全体としては堅調に推移して、各社とも試薬の販売に注力している

受託サービスの市場はオリゴ合成、シーケンス解析の価格競争の激化により、減少している。一方、たんぱく質関連の研究が今後も進むことが見込まれるため、プロテオーム解析は拡大が予測される。この他、遺伝子発現解析も技術的な難易度が高いため、受託解析業者への委託が増加し、順調に売上げを伸ばしていくことが見込まれる。

バイオインフォマテクスは、ハードウェアの割合が高くなっているが、価格の下落が続くため、市場の伸びが見込めない。データベース・システムインテグレーションはゲノム解析が進み、データ処理量の増加により、主な受注先である製薬会社の需要が増え市場は拡大している。ハードウェアは単価の安い機器の需要が増えた事、

ソフトウェアは無償ソフトの公開が進んでいることから減少が見込まれる。

2. 医療市場（バイオ医薬、診断市場、その他）

2004年のバイオ医薬市場で実績を大きく伸ばしたのは抗体医薬である。また分子標的医薬品市場も拡大している。一方、遺伝子組換え医薬品は、2004年も2003年に引き続き縮小し、大型新製品の上市が待たれる。バイオ医薬市場は、今後も抗体医薬が市場を牽引していくと予測され、また分子標的治療薬も期待が大きい。一方、遺伝子組み替え医薬品は、大型製品が登場しない限り減少傾向で推移すると見られる。

診断市場は厳しい状況が続いている。低迷を続けている要因としては、検査キットなどが診療報酬改定の際に引き下げの対象になりやすく、検査センターから値下げ圧力を恒常的に受けることが挙げられる。

その他の分野では、バイオセンサーの中に含まれる自己血糖測定装置、診断薬が、糖尿病患者が年々増加していることにより市場を拡大している。今後も高齢化の進行により、生活習慣病患者は増加が見込まれ、自己血糖測定装置・診断薬は順調に伸びていくと見込まれる。また2010年以降、本格的に再生医療の市場が形成されると見られ、拡大が期待される。

3. バイオ食品・バイオ化粧品市場

本調査では、バイオ食品は、バイオ技術を用いて作られた食品用途の原材料マーケットだけではなく、原材料を用いた加工食品を対象としている。原材料としては、食物繊維、ペプチド食品、DHAなどの一部もしくは全部がバイオ技術を用いて生産されている。消費者の間では、健康志向が高まっており、食物繊維やDHAなど、健康素材の定番となっているバイオ食品は今後も一定の需要があり、横ばいで推移すると予測される。

バイオ化粧品市場は、皮膚老化防止・保湿成分配合の製品の売上げが好調に推移しているが、美白関連は横ばいとなっている。老化防止を訴求した製品の需要は今後も、市場を牽引していくと予測される

<注目分野>

アグリ市場（遺伝子組換え、組織培養、細胞融合）

2004年 3,562億円 2015年予測 7,935億円（対04年比 2.2倍）

害虫耐性や除草剤耐性、病害対抗性を持たせた遺伝子組換え農作物は、抗体医薬と並んでバイオ関連市場を牽引している。輸入に依存しているのが現状であり、今後も依存度は更に高まると予測される。遺伝子組換え農作物は輸入増の傾向があるが、遺伝子組換え食品に対する反発は国内では根強く、特に遺伝子組換えイネに対する反対運動が今後も各地で起こる可能性がある。花卉だけは消費者に受け入れられつつあり、市場に好影響を与えている。

抗体医薬 2004年 135億円 2015年予測 600億円（対04年比 4.4倍）

抗体医薬とは、生物の体内で免疫反応をつかさどる「抗体」というたんぱく質を利用した医薬の総称である。抗体医薬は、がん細胞など標的細胞だけに結合する抗体の性質を利用して患部をピンポイントで攻撃する事ができ、低分子の化合物を利用する従来の医薬品では難しい難病の治療や副作用の低減が期待できる。

市場は、当面急拡大を続けると予測される。抗体医薬に注目が集まる要因としては、副作用が少ないことと、臨床試験を開始した後に中止になるリスクが少ない事が製薬企業にとっては魅力となっているからである。今後も既存治療薬で十分な効果が得られない分野で新薬が上市され市場が拡大していくことが見込まれる。

DNAチップ 2004年 58億円 2015年予測 150億円（対04年比 2.6倍）

2004年以降、SNPs解析の分野においてDNAチップの使用機会が本格的に増加していることもあり、市場は拡大していくと予測される。現在DNAチップは研究用市場に限定されているが、今後は医薬品と遺伝子情報の相関関係を活用した薬理ゲノム学分析（ファーマコゲノミクス）での使用が期待される。医薬品の研究開発にはDNAチップは欠かせないツールとなっており、枚数市場は本格的な拡大期を迎えている。将来的に薬剤投与前の診断に使用されるようになれば、市場は更に飛躍的な拡大を遂げることが予測される。

< 調査対象 >

調査対象	分野	品目
研究開発支援市場	解析試薬・機器	制限酵素・修飾酵素、PCR 装置・試薬、リアルタイム PCR、DNA シーケンサー・キット、DNA チップ・装置、ラブオンチップ・解析装置、DNA 抽出装置、DNA・RNA 抽出試薬、RNAi 試薬、プロテインチップシステム、質量分析装置、二次元電気泳動システム、物質間相互作用解析装置、細胞分離用試薬、シグナル伝達関連試薬
	受託サービス市場	オリゴ合成、ペプチド合成、シーケンス解析、遺伝子発現解析、遺伝子多型解析、プロテオーム解析、遺伝子診断
	バイオインフォマテクス	ハードウェア、パッケージソフト、データベースおよびシステムインテグレーション
医療用市場	バイオ医薬市場	遺伝子組換え・組織培養医薬品、抗体医薬、分子標的医薬品、RNAi 医薬、ゲノム創薬
	診断市場	感染症遺伝子診断、癌関連遺伝子診断、モノクローナル抗体、予知診断
	その他	バイオセンサー、再生医療、テーラーメイド医療
その他市場	アグリ分野	
	食品・化粧品	バイオ甘味料、バイオ食品、バイオ化粧品

< 調査方法 >

弊社専門調査員による関連企業への直接ヒアリング調査

< 調査期間 >

2005年7月～2005年11月

以上

資料タイトル：「2005 バイオビジネス市場」
 体 裁 ： A4判 267頁
 価 格 ： 100,000円（税込み 105,000円）
 CD-ROM付 110,000円（税込み 115,500円）
 調査・編集：富士経済 東京マーケティング本部 第三事業部 メディカルグループ
 TEL:03-3664-5821 FAX:03-3661-9514
 発 行 所：株式会社 富士経済
 〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町2-5 F・Kビル
 TEL03-3664-5811 (代) FAX 03-3661-0165 e-mail:koho@fuji-keizai.co.jp
 この情報はホームページでもご覧いただけます。
 URL:http://www.group.fuji-keizai.co.jp